

ver4.0.0 よりグループ診療機能（1つの「日レセ」システムで複数医療機関の運用を可能とする機能）が実装されました。

国保の診療報酬請求書を作成されている場合は次の修正を行う必要があります。

#### 変更内容

1. 変数「HOSPID」を「HOSPNUM」に変更する。
2. 「HOSPNUM」が定義されているテーブルを検索する場合、必ず「HOSPNUM」を検索条件に含める。
3. データベースアクセス関数を「ORCDBMAIN」に変更する。
4. サブプログラム（年齢チェック等）の引数に SPA-AREA を追加する。
5. 初期処理に「SPA-HOSPNUM」の編集を追加する。
6. バッチ処理強制終了サブプログラム新規作成。
7. 入力パラメタを変更する。
8. サブプログラム「ORCSJOB」の入力引数に「JOB-HOSPNUM」の編集を追加する。
9. 一時ファイルのファイル名称に「HOSPNUM」の編集を追加する。
10. 起動スクリプトの引数にエラーファイル名を追加する。
11. 起動スクリプトの「ORCBJOB」の入力引数に HOSPNUM を追加する。
12. ログファイルの名称の変更をする。

変更内容1～6は「カスタマイズプログラムのグループ診療対応（共通）」を参照ください。

ここでは6～11の変更内容について説明を行います。

6. バッチ処理強制終了サブプログラム新規作成。

対象データが集計対象にならなかったとき、エラー処理でジョブ管理にエラーを書き出しますが、このとき JBE の処理区分で ORCSJOB を呼び出します

JBE の場合トランザクションエンドしてスタートしていますので、エラー処理後の DB の CLOSE 処理等を意識する必要があります。

エラー処理後に「cobabort」を呼び出すことにより、そこで処理が停止するので DB の CLOSE 処理等を意識する必要がなくなります。

「cobabort」使用例

```
PERFORM 500-ERR-HENSYU-SEC
+ MOVE SPACE TO WRK-ERRMSG
+ STRING "SAMPLE1 " DELIMITED BY SIZE
+ WRK-RECEERR DELIMITED BY SIZE
+ LOW-VALUE DELIMITED BY SIZE
+ INTO WRK-ERRMSG
+ END-STRING
+ CALL "cobabort" USING WRK-ERRMSG
END-IF
```

log ファイル

```
cobabort: SAMPLE1 集計対象外 患者番号=08813 診療年月=200610 レセ種別=1310
```

syslog

```
Jul 12 10:29:18 localhost panda/dbstub[15023]: SAMPLE1 集計対象外 患者番号=08813 診療年月=200610 レセ種別=1310
```

7. 入力パラメタを変更する。

共通入力パラメタの「HOSPID」を「HOSPNUM」に変更します。

また、エラーファイル名称を共通入力パラメタに追加します。

(プログラム変更点)

- ・ WORKING-STORAGE SECTION のエラーファイル名称用の COPY 句を変更します。
- ・ WORKING-STORAGE SECTION の共通入力パラメタの項目定義について、「HOSPID」を「HOSPNUM」に変更します。
- ・ 初期処理の入力パラメタの編集部分について「HOSPID」の編集を「HOSPNUM」の編集に変更します。また「HOSPNUM」の編集の直後に「RECEERR」の編集を追加します。
- ・ 「RECEERR」の編集部分を削除します。

入力パラメタ変更例

①WORKING-STORAGE SECTION のエラーファイル名称用の COPY 句を変更します。

```

*
  WORKING-STORAGE          SECTION.
*
*   エラーファイル 名称領域
-   COPY   "CPCOMMONDAT2. INC"
-           REPLACING  //RECE01PARA//
+   COPY   "CPERRFL. INC"  REPLACING  //ERRFLPARA//
-           BY          //RECEERR//.
-   03  FILLER              PIC X(04)  VALUE  ".dat".
    
```

②WORKING-STORAGE SECTION の共通入力パラメタの項目定義について、「HOSPID」を「HOSPNUM」に変更します。

```

*   パラメタ領域
01  WRK-PARA.
    COPY   "CPORCSPRTLNK. INC".
-   03  WRK-PARA-HOSPID    PIC X(24).
+   03  WRK-PARA-HOSPNUM  PIC 9(02).
    03  WRK-PARA-JOBID    PIC 9(07).
    03  WRK-PARA-SHELLID  PIC X(08).
    
```

- ③初期処理の入力パラメタの編集部分について「HOSPID」の編集を「HOSPNUM」の編集に変更します。  
また「WRK-PARA-SYOKBN」の編集の直後に「RECEERR」の編集を追加します。

```

UNSTRING  COMMAND-PARAM  DELIMITED BY ", "
          INTO  LNK-PRTKANRI-RENNUM
                LNK-PRTKANRI-TBL-KEY
                LNK-PRTKANRI-TBL-GROUP
                LNK-PRTKANRI-SHORI-RENNUM
                LNK-PRTKANRI-SRYYM
                LNK-PRTKANRI-SKYMD
                LNK-PRTKANRI-SHELLID
                LNK-PRTKANRI-PRIORITY
                LNK-PRTKANRI-TERMID
                LNK-PRTKANRI-OPID
                LNK-PRTKANRI-PRTNM
-          WRK-PARA-HOSPID
+          WRK-PARA-HOSPNUM
          WRK-PARA-JOBID
          WRK-PARA-SHELLID
          WRK-PARA-HKNJANUM
+          WRK-PARA-SYOKBN
          RECEERR

          END-UNSTRING
          *
    
```

- ④「RECEERR」の編集部分を削除します。

```

          *
-          MOVE  "RECEERR"      TO  RECEERR-FILE-ID
-          MOVE  LNK-PRTKANRI-TERMID
-                                     TO  RECEERR-TERMID
    
```

8. サブプログラム「ORCSJOB」の入力引数に「JOB-HOSPNUM」の編集を追加する。

(プログラム変更点)

- ・サブプログラム「ORCSJOB」の入力引数に「JOB-HOSPNUM」の編集を追加します。

サブプログラム「ORCSJOB」の呼び出し部分変更例

```
*
*   ステップ管理開始処理
MOVE   "STS"           TO   SJOBKANRI-MODE
MOVE   WRK-PARA-JOBID TO   JOB-JOBID
MOVE   WRK-PARA-SHELLID
                                TO   JOB-SHELLID
+     MOVE   SPA-HOSPNUM TO   JOB-HOSPNUM
MOVE   "SAMPLE1"      TO   JOB-PGID
MOVE   "国保・診療報酬請求書"
                                TO   JOB-SHELLMSG
CALL   "ORCSJOB"      USING
                                ORCSJOBKANRIAREA
                                JOBKANRI-REC
+     SPA-AREA
*

```

9. 一時ファイルのファイル名称に「HOSPNUM」の編集を追加する。  
一時ファイルを作成して編集処理を行っている場合、ファイル名称の編集に「HOSPNUM」を追加します。

(プログラム変更点)

- ・一時ファイルのファイル名称の編集に「HOSPNUM」を追加します。

ファイル名称編集部分変更例

	MOVE	"RECEUPD"	TO	RECEUPD-FILE-ID
	MOVE	LNK-PRTKANRI-TERMID		
			TO	RECEUPD-TERMID
+	MOVE	WRK-PARA-HOSPNUM		
+			TO	RECEUPD-HOSPNUM

10. 起動スクリプトの引数にエラーファイル名を追加する。

6-③で追加した RECEERR に併せて、\${16} のエラーファイル名を追加します。

引数の追加例

(変更点)
-
\$DBSTUB -dir \$LDDEFDIR/directory -bd tokyo SAMPLE1 -parameter
\$1, \$2, \$3, \$RENUM, \$5, \$6, \$7, \$8, \$9, \${10}, \${11}, \${15}, \${12}, \${13}, \${18}, 2
+
\$DBSTUB -dir \$LDDEFDIR/directory -bd tokyo SAMPLE1 -parameter
\$1, \$2, \$3, \$RENUM, \$5, \$6, \$7, \$8, \$9, \${10}, \${11}, \${15}, \${12}, \${13}, \${18}, 2, \${16} >> \$LOG_FILE
2>&1

1 1. 起動スクリプトの「ORCBJOB」の入力引数に HOSPNUM を追加する。  
変更内容 2 により、ジョブ管理テーブルの検索に HOSPNUM が必要になります。  
このため、「ORCBJOB」の入力引数に \${15} の HOSPNUM を追加します。

#### 引数の追加例

```
(変更点)
-      $DBSTUB -dir $LDDEFDIR/directory -bd orcabt ORCBJOB -parameter JBE${12}${13}
+      $DBSTUB -dir $LDDEFDIR/directory -bd orcabt ORCBJOB -parameter JBE${12}${13}, ${15}
>> $LOG_FILE 2>&1
```



12. ログファイルの名称の変更をする。

1つの「日レセ」システムで複数医療機関の運用が可能となるため、ログファイル名が重複する可能性があります。

そのため、ログファイル名称にHOSPNUMを追加します。

また、ver4.0.0よりログファイルの格納場所として/var/log/jma-receipt/を作成しました。

独自に作成されている場合もこちらに格納されるようお勧めします。

#### ログファイル使用例

```
rm -f /home/orca/sample1.log

LOG_FILE="/var/log/jma-receipt/${15}sample1.log"
rm -f $LOG_FILE
$DBSTUB -dir $LDDEFDIR/directory -bd tokyo SAMPLE1 -parameter
$1, $2, $3, $RENUM, $5, $6, $7, $8, $9, ${10}, ${11}, ${15}, ${12}, ${13}, ${18}, 2, ${16} >> $LOG_FILE
2>&1
```